

第118回

定期総会

山梨県立甲府高等女学校同窓会

山梨県立甲府第二高等学校同窓会

山梨県立甲府西高等学校同窓会



令和5年5月13日(土)

新又古+風
+ 家

家



山梨県立高等女学校 山梨県立甲府高等女学校 校歌

作詞 本多 龜 三
作曲 三 谷 良 太

♩ = 96



1. そ こ つ い わ ね に ま き ー ば し ら



ふ と し き た て し ま な ー び や の



に わ に め ぐ み の つ ゆ ー し げ く



そ だ つ わ れ ら ぞ さ ち ー お お き

四

三

二

一

未だ二葉なる姫小松
教の雨にうるほひて
春立つ毎に色を添へ
榮えゆくこそめでたけれ

皇國に無雙勝景なる
金溪をしのぶ荒川の
清き流れを鑑とし
貞淑の心磨かなむ

皇國の鎮と峙ちて
千代に動かぬ富士の嶺の
靈しき姿を仰ぎつ、
節操の心高めなむ

底つ磐根に眞木柱
太しき立たし學び舎の
庭に皇恩の露繁く
育つ我等ぞ幸多き

山梨県立甲府第二高等学校 山梨県立甲府西高等学校 校歌

作詞 尾崎喜八
作曲 平井康三郎

一

立ちならぶ四方の山々
めぐり出る豊のながれに
美はしや甲斐の國中
歴史古る大京都よ
ここにして母校のいらか
玉の窓空に映えたり

二

身は鍛へ心清めつ
いや深く學を修めて
吾の幸と國の榮に
つくきなむ高き理想よ
その夢のうつつの姿
まなかひの富士に見るかな

三

峡深く結ぶ粗玉
磨かずば光あらじな
秀づべき資性のさまざま
生ひ立たす愛の母校よ
稱へなむとこしへかけて
甲府なるわが西高



甲府高等女学校



甲府第二高等学校



甲府西高等学校

沿革

| | |
|-------|---|
| 明治35年 | 校舎竣工 県立山梨県高等女学校と称し開校式を挙ぐ 定員100名修業年限4か年 |
| 明治36年 | 寄宿舎竣工 |
| 明治38年 | 技芸専修科(定員50名修業年限2か年)付設 山梨県立高等女学校と改称 |
| 明治39年 | 補習科(定員50名、修業年限1か年)付設 |
| 明治40年 | 山梨県立高等女学校校歌制定 |
| 明治44年 | 技芸専修科廃止実科(定員40名修業年限3か年)付設 |
| 大正4年 | 補習科廃止 |
| 大正6年 | 本科定員150名に |
| 大正9年 | 補習科復活 本科定員200名に |
| 大正11年 | 実科廃止山梨県立第一高等女学校と改称 |
| 大正13年 | 山梨県立甲府高等女学校と改称 本科定員200名補習科定員100名に |
| 昭和7年 | 創立30周年記念式典を挙ぐ |
| 昭和12年 | 寄宿舎廃止 |
| 昭和14年 | 本科定員250名に |
| 昭和16年 | 新校舎完成 |
| 昭和17年 | 創立40周年記念式典を挙行 |
| 昭和18年 | 補習科廃止、専攻科(定員50名修業年限1か年)付設 |
| 昭和19年 | 保育所付設 |
| 昭和20年 | 甲府大空襲により火災校舎全焼。穴切・花鳥・右左口・上野・押原・敷島・葎崎・日野春小学校に分校授業 |
| 昭和21年 | 保育所廃止 分校廃止 元六三部隊兵舎を校舎とする |
| 昭和22年 | 新入生募集を中止 山梨県立甲府高等女学校併設中学校を併設 |
| 昭和23年 | 学制改革のため山梨県立甲府第二高等学校となる |
| 昭和24年 | 復興校舎完成元六三部隊兵舎校舎を廃止 併設中学校廃止 |
| 昭和25年 | 被服課程50名食物課程50名修業年限3か年。 |
| 昭和26年 | 男女共学実施 |
| 昭和27年 | 定時制課程を設置 雨天体操場兼講堂完成 創立50周年記念式典を挙行 |
| 昭和30年 | 被服課程食物課程を廃し家庭課程100名とする |
| 昭和33年 | 林間学校ハヶ岳寮落成 |
| 昭和34年 | 学校図書館並びに同窓会館落成 |
| 昭和35年 | 創立60周年記念式典を挙行 |
| 昭和37年 | 体育館並びに体育部室落成 |
| 昭和40年 | 家庭課程廃止普通課程だけとなる |
| 昭和47年 | 定時制課程廃止(県立中央高校に統合) 創立70周年記念式典を挙行 下飯田新校地の整地造成工事始まる |
| 昭和48年 | 下飯田町校舎建設着工 |
| 昭和50年 | 寿町から現在地に移転 甲府第一甲府南両高との3校総合選抜により男女共学となる 校舎落成竣工式挙行 |
| 昭和51年 | 校庭夜間照明設置 |
| 昭和52年 | 山梨県立甲府西高等学校と改称 |
| 昭和56年 | 屋外プール及び付属施設完成 |
| 昭和57年 | 創立80周年記念式典を挙行 |
| 平成元年 | 文化創造館「鳳凰館」竣工式を挙行 |
| 平成4年 | 創立90周年記念式典を挙行 |
| 平成9年 | 全日制単位制高等学校に改編 定員320名 |
| 平成11年 | 耐震大規模改修完了 ハヶ岳寮廃寮 |
| 平成14年 | 創立100周年記念式典を挙行 |
| 平成24年 | 創立110周年記念式典を挙行 |
| 平成29年 | 創立115周年記念「今日は校長室で昼食会」を挙行 |
| 平成31年 | IB認定校(IBワールドスクール)となる |
| 令和3年 | 国際バカロレアディプロマプログラム開始 |

総目次

とびら

校歌 高女 西高

沿革

総目次 1

在校生2022 2

あいさつ 3～5

甲府西高等学校同窓会会長 石原 敬彦

第118回定期総会実行委員会委員長 井出 仁

甲府西高等学校校長 高見澤 圭一

第118回同窓会定期総会

総会次第 6

令和4年度事業報告書 7～8

令和4年度同窓会収支計算書 9～10

第117回同窓会定期総会収支計算書 11

令和4年度企画部事業報告 12

令和5年度事業計画書(案) 13

令和5年度同窓会収支予算書(案) 14

第118回同窓会定期総会収支予算書(案) 15

同窓会役員 16～18

同窓会会則 19～20

懇親会次第 21

特集 22～30

一如のめぐり逢い 過去と今が重なるとき

頑張っている在校生

令和4年度関東大会・全国大会出場および活躍の記録 31～32

進路状況 33

広告 34～45

協賛者御芳名 46～59

甲府西高等学校第118回定期総会実行委員会 編集後記 60

在校生 2022



4月8日 入学式



5月11日 県高校総体



5月21日 吹奏楽部定期演奏会



6月23日 鳳凰祭①



6月25日 鳳凰祭②



7月12日 野球応援



10月12日 健康の森ウォーキング大会



3月16日 球技大会

あいさつ

甲府西高等学校同窓会
会長 石原敬彦



今年は桜の開花が例年よりもずいぶんと早く、それに続いて菜の花、桃の花、ハナミズキなどが次々と花を咲かせて甲府盆地を華やかに彩りました。新緑の訪れも早く、周囲の山の緑は初夏を通り越して夏をさえ感じさせます。入梅前の爽やかなこの季節に来賓、同窓生の皆様にご出席をいただいて定期総会が開催できますことを誠に喜ばしく思います。また同窓生の皆様には平素より、同窓会活動に多大なるご支援とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて私は大学1年生の5月、回生理事として初めて定期総会に参加した時のことを今でも鮮明に覚えています。会場は古名屋ホテルの大きな和室で、参加者は50名ほどでした。先輩方は本当に温かく迎え入れてくださり、私は余興を仰せつかってギターで弾き語りをいたしました。あれから45年が経ち、定期総会も変遷を重ねて、700人規模の同窓生を集めるまでになりました。これは、先達の皆様が、それぞれその時代その時代に求められる理想的な定期総会の具現化にご尽力されて来られた賜物であります。私たちもまた同様に先達から託された伝統をしっかり引き継いでいかなければなりません。

新型コロナウイルスの蔓延により、従来の形式での定期総会の開催が不可能となりました。第116回総会は開催すること自体が出来ず、開催の可能性に賭けて一年延期をいたしました。実行委員会の皆様と私たちの願いは

叶わないまま書面総会となりました。続く第117回総会は、母校西高体育館で人数を制限して懇親会を行わず総会のみを実施いたしました。そして118回目を迎える今定期総会は、県立文学館をお借りして、飲食は出来ませんが総会の実施に合わせて懇親会が復活いたします。

今回の定期総会の準備には大変なご苦勞がありました。井出仁実行委員長をはじめ実行委員の皆様は、コロナの状況をリアルタイムで注視しながら、また、多くの制約がある中で、「最高の総会」を創ろうとあらゆる可能性を追求してくださいました。会場の選択と準備設営、総会と懇親会の流れや内容、傘寿を迎えられた皆様へのおもてなし、ご招待を差し上げる皆様への対応など、「今できること」をまさに最大限に考えてくださり、細やかな配慮をさせていただきながら準備にご尽力くださいました。私は第118回総会実行委員会の皆様が取り組まれている様子から、何かを成し遂げようとする際に「想い」や「可能性を見出して挑戦すること」がいかに大切であるかを再認識させていただきました。同時にその熱量の高さは、まぎれもなく母校甲府西高への深い愛情から生まれてきたものであることを痛感いたしました。

改めて第118回実行委員会の皆様のご尽力に心より感謝を申し上げ、並びに同窓生の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、挨拶といたします。

あいさつ



甲府西高等学校同窓会
第118回定期総会実行委員会
委員長 井出 仁

第118回総会が開催されますことを同窓生の皆様と心からお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大は私たちの暮らしに様々な影響を及ぼし、人と人との関わり方に大きな変化をもたらしています。職場に行けずスマホやパソコンの画面で打ち合わせを行い、入院した親族にも会えずに、感染した方と僅かでも一緒にいたという理由で家族同士でも隔離を求められるといった状況です。人と人との関わり、そもそも人と一体どうかかわったらよいのか。こうした中で、変わる事のない「よりどころ」がとても大切に感じられるようになりました。古くからの仲間、たとえば「同窓生」もそうでしょう。

大切に感じられるには、きっと理由があります。それは、私たちが、気兼ねなく寄り添い合い、いつでも戻っていける場所だからではないかと思います。でも、出会いの最初はどうだったでしょう。人と人との出逢いとは、そのきっかけは単なる偶然でしかありません。学校でのクラスメート、職場での人との出会い、人生で忘れられない方との出逢いも、最初は、ほんの偶然だったのではないのでしょうか。その偶然の出逢いに、幾重にも沢山の思い出が積み重なっていきます。思い起してみません

か。ほんのいつときの偶然の出逢いが 私の人生を変え、今の私を支えている。

そうすると、あの出逢いは、きっと運命だったのだ、今にして思い返すと、そんな小説のような劇的な出逢いだった。過ぎ去った偶然だった出逢いのときから、大切な、忘れられない出逢いに姿を変えている。私たちの心の中で過去と今が一如となっていく。皆さんにも、きっと過去と今が重なり合う、こうした一如のめぐり逢いがあると思います。

私たちは甲府高女、甲府二校そして甲府西高で、それぞれ同じ場所で同じ時を過ごしてきました。そこではとてもたくさんの出逢いがありました。心に残る出逢いが、今の皆さんの心の中に大切なかけがえのない出逢いとして蘇る。めぐり逢いが大切な思い出として、今を生きるわたしたちに蘇る。本日の同窓会総会がそんな機会になることを実行委員一同、念じております。

本日の総会開催に至るまで石原同窓会長さまを始め同窓会執行部の皆様、理事、常任理事の皆様のお支えを頂きましたことに、改めて御礼申し上げ、実行委員会を代表してご挨拶とさせていただきます。

あいさつ

山梨県立甲府西高等学校
校長 高見澤 圭一



よも
立ちならぶ四方の山々の緑が日一日とその濃さを増し力強さを感じられる季節となりました。本日この佳き日に令和5年度山梨県立甲府西高等学校同窓会第118回定期総会が、多くの同窓生のご参加のもと、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。併せて、同窓会の皆様には、母校の教育振興のために平素より格別のご後援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響は、まだ残るところではありますが、学校においてもマスクの着用や行動への制限などが徐々に見直され、学習の場面や部活動、行事等、少しずつ通常の学校生活が戻ってきております。西高生の充実した高校生活や活躍の様子をお伝えできる機会も増えていきます。同窓生の皆様におかれましても、高校生活を思い出すよい機会としていただけると幸いです。

さて、社会においては人口減少やAIをはじめとする情報技術の急激な進展、産業構造の変化など私たちの生活や生き方にまでも影

響を与える大きな変化が進んでいます。私たち教職員は、将来、生徒がこうした社会の中で活躍し、幸せな人生やより良い社会の実現を目指すことができる資質や能力を育みたいと日々の教育活動に努めております。こうした教育をさらに充実させるためには、同窓会の皆様の豊富な知識や経験をもとにした様々な支援が必要です。これまでの西高生がおさめてきた学習や諸活動の成果も、同窓会の皆様の温かいご理解・ご支援の賜であります。今後ともなお一層のお力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

結びに、本定期総会実行委員の皆様方のご尽力に対し心から敬意を表しますとともに、同窓生の皆様のご健勝とご多幸、並びに同窓会の益々の発展を祈念し、あいさつといたします。

第118回 甲府西高同窓会定期総会 次第

日時 令和5年5月13日(土)

12時30分受付

13時00分開会

場所 山梨県立文学館研修室(総会)

- 1 開会のことば
- 2 物故 恩師・会員に黙祷
- 3 同窓会長あいさつ
- 4 学校長あいさつ
- 5 議長選出
- 6 議 事
 - (1) 令和4年度 事業報告
 - (2) 令和4年度 会計報告
 - (3) 第117回定期総会 会計報告
 - (4) 会計監査報告
 - (5) 役員改選・新役員委嘱
 - (6) 令和5年度 事業計画 (案)
 - (7) 令和5年度 予算 (案)
 - (8) 第118回定期総会 予算 (案)
 - (9) その他
- 7 議長解任
- 8 新入会員紹介・花束贈呈 (高75回生)
- 9 次期 第119回定期総会当番回生へ引継ぎ (高32回生)
- 10 閉会のことば

令和4年度 事業報告

令和4年

- 4月12日 母校入学式 会長の祝辞を印刷して入学生に配布
 18日 執行部会議
 23日 山日どれみるっくに第117回同窓会総会の広告掲載
- 5月9日 執行部会議
 15日 第117回定期総会……西高体育館にて実施（懇親会：中止）
 出席者：90名 総会誌・会報23号を配布
- 1 令和3年度事業報告
 - 2 令和3年度同窓会収支計算書
 - 3 第116回同窓会定期総会収支計算書
 - 4 令和2年・3年度企画部事業報告
 - 5 令和4年度事業計画書（案）
 - 6 令和4年度同窓会収支予算書（案）
 - 7 第117回同窓会定期総会収支予算書（案）
- 5月21日 西高吹奏楽部定期演奏会 祝い金贈呈
- 6月予定 東京支部総会……書面総会
 7日 第1回常任理事会 於：鳳凰館
- 1 会則等の変更について
 - 2 令和4年度講演会について
 - 3 第117回定期総会について
 - 4 第118回定期総会進捗状況について
 - 5 同窓会会計について
- 21日 西美会展（21日～26日）於：県立美術館 祝い金贈呈
 25日 鳳凰祭 於：YCC県民文化ホール 祝い金贈呈
 27日 〃 於：西高
- 6月27日 第1回理事会 於：鳳凰館
- 1 会則等の変更について
 - 2 令和4年度講演会について
 - 3 第117回定期総会について
 - 4 第118回定期総会進捗状況について
 - 5 同窓会会計について
- 9月26日 執行部・各部部長会議（西高創立120周年について）
 9月26日 講演会・理事会……………中止
 10月31日 同窓会奨学金授与式 会長・副会長2名が参加
 11月18日 執行部会議

12月19日 歳末助け合い募金を山日に届ける

令和5年

1月11日 執行部会議

2月16日 山梨県立甲府西高等学校創立120周年記念事業第1回実行委員会

- 1 実行委員会会則について
- 2 実行委員長の選任について
- 3 実行委員会役員について
- 4 実行委員会組織について
- 5 記念事業案について
- 6 事業内容について
- 7 記念事業実施計画について

2月28日 同窓会入会式 会長・顧問・副会長2名が参加し会長が祝辞を述べた

2月28日 第2回常任理事会・理事会

- 1 母校120周年記念事業について
- 2 第118回定期総会について
- 3 令和4年度会計について
- 4 役員の改選について

3月1日 卒業式 会長のみ式に参加 会長の祝辞は印刷して卒業生に配布

3月23日 第3回常任理事会

- 1 会則の一部改正について
- 2 令和4年度事業報告・会計決算報告について
- 3 第117回定期総会会計報告について
- 4 令和5年度事業案・予算案について
- 5 令和5・6年度役員について
- 6 第118回定期総会進捗状況について
- 7 令和5年度講演会について

4月11日 第3回理事会

- 1 会則の一部改正について
- 2 令和4年度事業報告・会計決算報告について
- 3 第117回定期総会会計報告について
- 4 令和5年度事業案・予算案について
- 5 令和5・6年度役員について
- 6 第118回定期総会進捗状況について
- 7 令和5年度講演会について

※その他、執行部・事務局・各部は会議を年間数回実施して会の運営にあたる

令和4年度 同窓会収支計算書

令和4年4月1日から 令和5年3月31日まで

| 収入総額 | 支出総額 | 差引額 |
|-----------|-----------|-----------|
| 3,608,038 | 2,396,727 | 1,211,311 |

収入の部

(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 備考 |
|---------|-----------|-----------|----------|-------------------------|
| 前年度繰越金 | 1,561,529 | 1,561,529 | 0 | |
| 会費 | 2,060,000 | 2,030,000 | 30,000 | 新会員10,000円×203名 |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 積立金取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 14 | 16,509 | △ 16,495 | 117回定期総会募金16,494円・利息15円 |
| 収入合計 | 3,621,543 | 3,608,038 | 13,505 | |

支出の部

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 備考 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-------------------|
| 謝礼金 | 150,000 | 0 | 150,000 | |
| 旅費 | 70,000 | 0 | 70,000 | |
| 消耗品費 | 30,000 | 52,895 | △ 22,895 | 事務用品等 |
| 記念品代 | 206,000 | 203,000 | 3,000 | 卒業生記念品(203名分) |
| 会議費 | 500,000 | 183,514 | 316,486 | 本会会議・常任理事会・専門部活動等 |
| 印刷製本費 | 360,000 | 24,612 | 335,388 | 会報等印刷 |
| 通信運搬費 | 70,000 | 116,182 | △ 46,182 | 各会議通知郵便料等 |
| 手数料 | 30,000 | 24,200 | 5,800 | 銀行貸金庫・残高証明・振込手数料等 |
| 教育振興費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 学校協力費 |
| 雑費 | 50,000 | 6,480 | 43,520 | お礼菓子 |
| 慶弔費 | 30,000 | 16,500 | 13,500 | 生花代 |
| 活動費 | 200,000 | 40,000 | 160,000 | 各種催事参加祝金等 |
| 事業費 | 650,000 | 564,344 | 85,656 | 総会準備金・奨学金・広告代 |
| 同窓会積立金 | 0 | 0 | 0 | |
| 固定資産購入支出 | 200,000 | 165,000 | 35,000 | 紙折機 |
| 予備費 | 75,543 | 0 | 75,543 | |
| 支出合計 | 3,621,543 | 2,396,727 | 1,224,816 | |


令和4年度 同窓会収支計算書

| | |
|------|------------|
| 現金 | 56,921 |
| 普通預金 | 1,154,390 |
| 定期預金 | 20,193,253 |


上記の通り報告いたします。


令和5年3月31日


同窓会長


石原 敬孝 

会計担当

土屋 和子 

本道 民呼 

安達 映美 

望月 かすみ 

厳正に監査の結果、諸帳簿、証票ともに適正に処理されていたことを確認しました。

令和5年4月9日

会計監査員

久保 嶋 仁 

塩 島 正文 

第117回 甲府西高同窓会定期総会 収支計算書

| 収入総額 | 支出総額 | 差引額 |
|-----------|-----------|--------|
| 1,245,002 | 1,198,554 | 46,448 |

収入の部

(単位：円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 備考 |
|--------|-----------|-----------|---------|--------|
| 広告・協賛金 | 1,000,000 | 1,045,000 | △35,032 | |
| 総会会員券 | 0 | 0 | - | |
| 総会準備金 | 200,000 | 200,000 | - | 本会より補助 |
| 雑収入 | 50,000 | 2 | 49,998 | 預金利息 |
| 収入合計 | 1,250,000 | 1,245,002 | 14,966 | |

支出の部

(単位：円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 備考 |
|-------|-----------|-----------|----------|--------------|
| 謝礼金 | 50,000 | 2,200 | 47,800 | 寄稿者御礼代 |
| 消耗品費 | 50,000 | 94,393 | △44,393 | トナー等事務用品費 |
| 印刷製本費 | 550,000 | 526,900 | 23,100 | 総会誌 |
| 通信費 | 30,000 | 156,390 | △126,390 | 傘寿者往復はがき等通信費 |
| 記念品代 | 200,000 | 297,060 | △97,060 | 傘寿記念品他 |
| 広告費 | 120,000 | 0 | 120,000 | |
| 会場費 | 30,000 | 10,000 | 20,000 | 生花代 |
| 会費 | 200,000 | 51,073 | 148,927 | 実行委員会会費 |
| 協賛金返金 | 0 | 29,780 | △29,780 | 申し出により返戻 |
| 予備費 | 20,000 | 30,758 | 10,758 | 集合写真・振込手数料 |
| 支出合計 | 1,250,000 | 1,198,554 | 61,414 | |

上記の通り報告いたします。

令和 5 年 4 月 9 日

実行委員長

深川和彦 (印)

会計部長

塩野豊 (印)

厳正に監査の結果、諸帳簿・証拠書類ともに適正に処理されていることを確認しました。

令和 5 年 4 月 9 日

会計監査員

久保嶋仁 (印)

会計監査員

塩島正文 (印)

令和4年度 事業報告 企画部

講演会 令和4年9月26日

『企画部作成のDVD上映』・・・コロナ蔓延により中止

回生担当としての活動 —— 下記 三氏の活動に着目し応援

平松伴子様 (高12回生)

ベトナムにボランティアで『仁愛の家』を造り、50軒の完成に至る。

作家として、ベトナム友好団体連合より『民族間の平和と友好』記章を授与される。



雪江なほみ様 (高12回生)

雪江様亡夫が入手された戦時下で描かれたベトナムの絵画120点の中から1部を展示した『ベトナム絵画展』を令和4年11月(於 甲府ミュージアムハウス)に開催。

絵画は研究者より高い評価を得ている。



奥山眞佐子様 (高26回生)

長年にわたり樋口一葉作品の一人芝居を上演。朗読や講演なども行う。

この度市川房枝氏をモデルにした書籍『権利の上に眠るな』を出版。



令和5年は日越(日本/ベトナム)外交関係樹立50周年に当たり、両国で記念行事が予定されています。企画部としても引き続きベトナム関連の活動を応援していきたいと思っております。また回生担当として、同窓生の活躍の情報を求めています。情報をお持ちの方は、同窓会事務局並びに企画部までお寄せください。

令和5年度 事業計画書（案）

- 1 **第118回定期総会の開催と第119回定期総会の準備**

総会は同窓会の一大事業として、実行委員会に付託し、世代を超えた多くの同窓生が参加し、交流と親睦を深める場とする。

*第118回定期総会については総会と懇親会を実施する。ただし懇親会での飲食は行わない。
- 2 **理事会及び常任理事会の開催と会議録の作成**

理事会、常任理事会など、諸会議の通知はもとより、会議内容、決定事項は会議録に残し、保管する。甲府西高同窓会HPに日程を掲載する。
- 3 **会報の発行と配布**

会報は同窓会及び同窓生の活動を伝えるために、内容の充実に努め、会員に愛され喜ばれる誌面にする。そのために各専門部や各支部から多角的に記事を集め、編集する。配布は入会式、総会で行う。
- 4 **回生の活動**

回生理事を中心に回生毎の活動を行うとともに、本会との連携を密にする。
- 5 **講演会の開催**

講演会の実施や各種イベントの開催等を行い、同窓生のなお一層の親睦を図る。「令和3年度講演会DVD」を活用する。
- 6 **学校行事への参加と協力**

同窓生のキャリアを生かして、学校行事には積極的に参加・協力し、在校生との交流を図る。
- 7 **教育振興会への援助**

教育振興会を通して、学校施設の充実と在校生の教育活動を支援する。
- 8 **同窓生名簿の管理**

同窓生の住所変更等の異動については、各回生からの連絡を受けた都度、速やかに処理する。
- 9 **奨学金の贈呈**

奨学金を贈呈して、母校の生徒の勉学を支援する。
- 10 **母校120周年記念事業への協力**

母校120周年を記念するための事業を行う実行委員会に参画するとともに、同窓会をあげて事業の成功に寄与する。
- 11 **ホームページの整備と活用**

ホームページに情報を掲載し発信する。併せて運用ルールを整備する。
- 12 **会則の見直し**

実情に合わせ、会則の見直しを行う。

令和5年度 同窓会収支予算書 (案)

令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで

| 収入総額 | 支出総額 | 差引額 |
|-----------|-----------|-----|
| 3,201,325 | 3,201,325 | 0 |

収入の部

(単位:円)

| 科 目 | 5年度予算額 | 4年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-------------------|
| 前年度繰越金 | 1,211,311 | 1,561,529 | △ 350,218 | |
| 会 費 | 1,990,000 | 2,060,000 | △ 70,000 | 新会員会費10,000円×199名 |
| 寄 付 金 | 0 | 0 | 0 | |
| 積立金取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑 収 入 | 14 | 14 | 0 | 利息等 |
| 収 入 合 計 | 3,201,325 | 3,621,543 | △ 420,218 | |

支出の部

| 科 目 | 5年度予算額 | 4年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------------|
| 謝 礼 金 | 100,000 | 150,000 | △ 50,000 | 講師謝礼等 |
| 旅 費 | 70,000 | 70,000 | 0 | 首都圏西高会等参加 |
| 消 耗 品 費 | 50,000 | 30,000 | 20,000 | 事務用品等 |
| 記 念 品 代 | 199,000 | 206,000 | △ 7,000 | 卒業記念品 |
| 会 議 費 | 450,000 | 500,000 | △ 50,000 | 本会会議・常任理事会・専門部活動等 |
| 印 刷 製 本 費 | 360,000 | 360,000 | 0 | 会報印刷等 |
| 通 信 運 搬 費 | 100,000 | 70,000 | 30,000 | 各会議通知郵送料等 |
| 手 数 料 | 30,000 | 30,000 | 0 | 銀行貸金庫・残高証明・振込手数料等 |
| 教 育 振 興 費 | 700,000 | 1,000,000 | △ 300,000 | 学校協力費 |
| 雑 費 | 50,000 | 50,000 | 0 | お礼等 |
| 慶 弔 費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 活 動 費 | 100,000 | 200,000 | △ 100,000 | 首都圏西高会・各種催事祝金等 |
| 事 業 費 | 650,000 | 650,000 | 0 | 総会準備金・奨学金・語学留学補助 |
| 同窓会積立金 | 0 | 0 | 0 | |
| 固定資産購入支出 | 0 | 200,000 | △ 200,000 | |
| 予 備 費 | 312,325 | 75,543 | 236,782 | |
| 支 出 合 計 | 3,201,325 | 3,621,543 | △ 420,218 | |

第118回同窓会定期総会収支予算書（案）

| | | |
|-----------|-----------|-----|
| 収入見込額 | 支出見込額 | 差引額 |
| 2,250,000 | 2,250,000 | 0 |

収入の部

(単位:円)

| 科 目 | 5年度予算額 | 4年度予算額 | 増 減 | 備 |
|--------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 広告・協賛金 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 当番回生協賛金広告掲載料等 |
| 総会会員券 | 0 | 0 | 0 | 会費収入 |
| 総会準備金 | 200,000 | 200,000 | 0 | 本会より補助 |
| 雑 収 入 | 50,000 | 50,000 | | 来賓祝金、利息等 |
| 合 計 | 2,250,000 | 1,250,000 | 1,000,000 | |

支出の部

(単位:円)

| 科 目 | 5年度予算額 | 4年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 謝礼金 | 150,000 | 50,000 | 100,000 | アトラクション諸経費等 |
| 消耗品費 | 100,000 | 50,000 | 50,000 | 事務用品費 |
| 印刷製本費 | 550,000 | 550,000 | 0 | 総会誌・写真代 |
| 通信費 | 100,000 | 30,000 | 70,000 | 協賛金依頼・来賓案内 |
| 記念品代 | 200,000 | 200,000 | 0 | 傘寿・来賓の通信費・記念品 |
| 広告費 | 300,000 | 120,000 | 180,000 | 山梨日日新聞広告掲載料 |
| 会場費 | 100,000 | 30,000 | 70,000 | 文学館会場費 |
| 会議費 | 250,000 | 200,000 | 50,000 | 実行委員会会議費 |
| 予 備 費 | 500,000 | 20,000 | 480,000 | |
| 合 計 | 2,250,000 | 1,250,000 | 1,000,000 | |

同窓会役員

甲府西高同窓会
令和5年4月11日現在

令和5年度

| 役 職 | 氏 名 |
|---------|---------|
| 顧問 校長 | 高見澤 圭 一 |
| 〃 教 頭 | 大 木 賢 一 |
| 〃 教 頭 | 秋 山 すみ江 |
| 〃 事務長 | 武 藤 完 |
| 校 内 総 務 | 渡 辺 和 弘 |
| 〃 理 事 | 新 海 大 博 |
| 〃 理 事 | 大 塩 木 帆 |

| 役 職 | 回 生 | 氏 名 |
|-------|-----|---------|
| 顧問 | 高15 | 坂 本 悦 子 |
| 会長 | 高30 | 石 原 敬 彦 |
| 副 会 長 | 高30 | 窪 田 さゆり |
| 〃 | 高30 | 深 川 和 彦 |
| 〃 | 高31 | 上 原 勇 七 |
| 〃 | 高31 | 近 山 貴 紀 |
| 〃 | 高36 | 入 倉 要 樹 |
| 東京支部長 | 高30 | 米 山 正 樹 |
| 常任理事 | 高20 | 土 屋 和 子 |
| 〃 | 高20 | 小 野 成 美 |
| 〃 | 高21 | 小 川 けい子 |
| 〃 | 高22 | 大久保 はるみ |
| 〃 | 高23 | 長谷部 澄 子 |
| 〃 | 高23 | 望 月 かつみ |
| 〃 | 高25 | 長 田 美沙子 |
| 〃 | 高27 | 長 倉 美 穂 |
| 〃 | 高28 | 遠 藤 明 子 |
| 〃 | 高30 | 塚 脇 亮 一 |
| 〃 | 高30 | 深 澤 寿 子 |
| 〃 | 高30 | 本 道 民 呼 |
| 〃 | 高30 | 新 津 和 美 |
| 〃 | 高31 | 井 出 仁 |
| 〃 | 高31 | 神宮司 易 |
| 〃 | 高38 | 山 縣 正 道 |
| 会計監事 | 高30 | 久保嶋 仁 |
| 〃 | 高30 | 塩 島 正 文 |
| 実行委員長 | 高32 | 池 田 敏 成 |

| 役 職 | 回 生 | 氏 名 |
|-----|------|---------|
| 理 事 | 甲女42 | 志 村 和 |
| 〃 | 甲女42 | 古 沢 なつき |
| 〃 | 甲女42 | 渡 辺 清 子 |
| 〃 | 甲女44 | 保 坂 雪 子 |
| 〃 | 甲女44 | 大 口 富喜代 |
| 〃 | 高1 | 犬 飼 寿 子 |
| 〃 | 高1 | 西 川 早 苗 |
| 〃 | 高2 | 深 沢 はるみ |
| 〃 | 高2 | 向 山 てる子 |
| 〃 | 高3 | 小 林 美佐代 |
| 〃 | 高3 | 樋 口 嘉 子 |
| 〃 | 高3 | 丸 山 徳 子 |
| 〃 | 高4 | 小 林 祐 子 |
| 〃 | 高4 | 越 石 惟 子 |
| 〃 | 高5 | 中 沢 勝 子 |
| 〃 | 高6 | 林 美喜枝 |
| 〃 | 高6 | 根 岸 京 子 |
| 〃 | 高7 | 荒 木 波満子 |
| 〃 | 高8 | 小 池 たへ子 |
| 〃 | 高8 | 新 井 益 子 |
| 〃 | 高9 | 田之口 邦 子 |
| 〃 | 高10 | 有 泉 志づ子 |
| 〃 | 高10 | 青 島 洋 子 |
| 〃 | 高11 | 青 柳 八重子 |
| 〃 | 高12 | 葉 袋 寿 子 |
| 〃 | 高12 | 磐 上 百合子 |
| 〃 | 高13 | 五 味 梅 子 |

| 役職 | 回生 | 氏名 |
|----|-----|-----------|
| 理事 | 高13 | 林 紘子 |
| 〃 | 高14 | 松 本 さか江 |
| 〃 | 高14 | 中 島 美智子 |
| 〃 | 高14 | 米 山 紀子 |
| 〃 | 高15 | 内 藤 規子 |
| 〃 | 高17 | 田 口 喜代子 |
| 〃 | 高17 | 上 田 八重子 |
| 〃 | 高17 | 竹 内 尚子 |
| 〃 | 高17 | 金 丸 節子 |
| 〃 | 高18 | 新 海 宏子 |
| 〃 | 高18 | 新 窪 島 満喜子 |
| 〃 | 高20 | 岩 下 治子 |
| 〃 | 高20 | 岩 間 清美 |
| 〃 | 高21 | 仲 澤 マチ子 |
| 〃 | 高21 | 依 田 よし子 |
| 〃 | 高21 | 村 松 昭子 |
| 〃 | 高22 | 小 林 和子 |
| 〃 | 高23 | 中 込 千春 |
| 〃 | 高23 | 沢 登 美千子 |
| 〃 | 高23 | 清 水 公子 |
| 〃 | 高23 | 佐 藤 治子 |
| 〃 | 高24 | 久津間 恵理子 |
| 〃 | 高24 | 桂 嶋 恵美子 |
| 〃 | 高24 | 本 田 喜美子 |
| 〃 | 高25 | 穴 水 早代子 |
| 〃 | 高25 | 萩 原 良子 |
| 〃 | 高26 | 厚 芝 好美子 |
| 〃 | 高26 | 樋 口 順子 |
| 〃 | 高26 | 望 月 美知子 |
| 〃 | 高26 | 丸 山 美由里 |
| 〃 | 高27 | 日下部 俊子 |
| 〃 | 高27 | 宮 川 由美子 |
| 〃 | 高27 | 古 屋 真紀子 |
| 〃 | 高28 | 雨 宮 ひろみ |
| 〃 | 高28 | 庄 司 恵美子 |
| 〃 | 高29 | 青 山 和子 |
| 〃 | 高29 | 一 瀬 晴美 |
| 〃 | 高30 | 猪 股 尚幸 |
| 〃 | 高30 | 橘 田 豊明 |
| 〃 | 高30 | 高 野 正恵 |

| 役職 | 回生 | 氏名 |
|----|-----|----------------------------------|
| 理事 | 高31 | 赤 池 浩三子 |
| 〃 | 高31 | 清 田 明子 |
| 〃 | 高31 | 小田切 妙子 |
| 〃 | 高33 | 赤 池 満章 |
| 〃 | 高34 | 野 村 博之 |
| 〃 | 高34 | 田 中 一正 |
| 〃 | 高34 | 坂 本 川 一正 |
| 〃 | 高34 | 市 本 川 一正 |
| 〃 | 高35 | 八 卷 一雅 |
| 〃 | 高35 | 井 上 英史 |
| 〃 | 高35 | 朱 官 貴仁 |
| 〃 | 高35 | 石 原 寛幸 |
| 〃 | 高35 | 丹 澤 明伸 |
| 〃 | 高36 | 堤 山 祐仁 |
| 〃 | 高36 | 神 北 繁史 |
| 〃 | 高36 | 北 条 井澤 昌人 |
| 〃 | 高36 | 笠 野 澤 田 一昭 |
| 〃 | 高37 | 堀 七 澤 尾 武治 |
| 〃 | 高37 | 七 澤 尾 木 山 晃秀 |
| 〃 | 高37 | 小 斉 遠 平 塚 澤 千雅 |
| 〃 | 高37 | 高 37 清 尚 文 香 |
| 〃 | 高38 | 高 38 清 新 内 藤 良一 |
| 〃 | 高38 | 高 38 清 新 内 藤 利彦 |
| 〃 | 高39 | 高 39 清 水 尚 文 香 |
| 〃 | 高39 | 高 39 清 水 尚 文 香 |
| 〃 | 高40 | 高 40 清 新 内 藤 良一 |
| 〃 | 高40 | 高 40 清 新 内 藤 利彦 |
| 〃 | 高40 | 高 40 清 新 内 藤 利彦 |
| 〃 | 高41 | 高 41 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高42 | 高 42 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高43 | 高 43 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高43 | 高 43 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高44 | 高 44 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高45 | 高 45 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高45 | 高 45 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高46 | 高 46 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高46 | 高 46 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高47 | 高 47 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |
| 〃 | 高47 | 高 47 山 若 川 井 上 嶋 山 井 原 木 子 井 川 勝 |

| 役職 | 回生 | 氏名 |
|----|-----|--------|
| 理事 | 高48 | 海口憲一 |
| 〃 | 高49 | 喜島知加 |
| 〃 | 高50 | 佐々木壮一 |
| 〃 | 高51 | 金丸浩司 |
| 〃 | 高51 | 進藤敬子 |
| 〃 | 高52 | 浅利慶太 |
| 〃 | 高53 | 上田浩司 |
| 〃 | 高54 | 坂本勇太 |
| 〃 | 高54 | 柊本沢芳美 |
| 〃 | 高55 | 今村友一 |
| 〃 | 高55 | 藤原麻帆 |
| 〃 | 高55 | 向山山憲稔 |
| 〃 | 高56 | 丸山山茂葉子 |
| 〃 | 高57 | 丸山茂葉子 |
| 〃 | 高57 | 鈴木木美紀 |
| 〃 | 高58 | 水村拓匠 |
| 〃 | 高59 | 内藤麻美 |
| 〃 | 高59 | 内藤月陽 |
| 〃 | 高60 | 望野田成美 |
| 〃 | 高60 | 野田成美 |
| 〃 | 高61 | 渡邊敬太 |
| 〃 | 高61 | 井戸理沙 |
| 〃 | 高62 | 志村卓史 |
| 〃 | 高62 | 斉藤わか |
| 〃 | 高62 | 一藤場かな |
| 〃 | 高63 | 一藤場雄樹 |

| 役職 | 回生 | 氏名 |
|----|-----|-------|
| 理事 | 高63 | 八巻菜保子 |
| 〃 | 高64 | 横山俊樹 |
| 〃 | 高64 | 樋川愛志 |
| 〃 | 高65 | 青野大志 |
| 〃 | 高65 | 横内詩音 |
| 〃 | 高66 | 五味永行 |
| 〃 | 高67 | 小林陽太 |
| 〃 | 高67 | 小松加奈 |
| 〃 | 高68 | 笹本恭平 |
| 〃 | 高68 | 栗冠真帆 |
| 〃 | 高69 | 松土大河 |
| 〃 | 高69 | 寺井瑞穂 |
| 〃 | 高70 | 中澤優真 |
| 〃 | 高70 | 飯室里仁 |
| 〃 | 高71 | 大野仁寛 |
| 〃 | 高71 | 長沢樹信 |
| 〃 | 高72 | 親松謙花 |
| 〃 | 高72 | 篠原綾 |
| 〃 | 高73 | 齊藤孝愛 |
| 〃 | 高73 | 田中山愛 |
| 〃 | 高74 | 秋猪股陽 |
| 〃 | 高74 | 野田風 |
| 〃 | 高75 | 野田愛 |
| 〃 | 高75 | 樋口佳奈 |

同窓会会則

第1条 (名称)

本会は、山梨県立甲府西高等学校同窓会と称する。

第2条 (目的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、母校との連絡を密にしつつ、進んで相互の向上進歩をはかることを目的とする。

第3条 (組織)

本会は、下記の者をもって組織する。

- 1 会員 (1) 普通会員 - 県立山梨県高等女学校・山梨県立高等女学校・山梨県立第一高等女学校・山梨県立甲府高等女学校の本科並びに専修科・実科の卒業生、補修科・専攻科修了生、併設中学校卒業生、山梨県立甲府第二高等学校、山梨県立甲府西高等学校卒業生

(2) 準会員 - 本会設立家政研究科修了生及び本校に在籍した者の中の希望者で、2名以上の会員から推薦された者

- 2 客員 母校の職員及び旧職員

第4条 (役員)

本会に下記の役員をおき、任期を2ヶ年とする。ただし再選をさまたげない。

- 1 会 長 (1 名) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。選出は理事会の互選により選出し総会の承認を得る。
- 2 副 会 長 (若干名) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。選出は理事の中より会長が委嘱する。
- 3 事務局 長 (1 名) 事務局は、庶務、企画、会計各部と会長副会長との連絡調整、各種記録の保存管理等本会の業務全般の事務処理を担当する。
- 4 庶務部長 (1 名) 庶務部は、議事録の作成、行事全般の記録、欠席役員に対しての連絡通達、会報の作成等を担当する。
- 5 企画部長 (1 名) 企画部は、講演会、レクリエーション等、同窓会事業の立案、回生対策等を担当する。
- 6 会計部長 (1 名) 会計は、一般会計及びその他の会計の金銭管理、事業予算対策及び終身会費の徴収等を担当する。

※上記の事務局 長、庶務、企画、会計の各部長1名の他、事務局次長2名、各副部長2名を選出する。事務局次長、副部長は、事務局 長、部長を補佐し、局長部長事故あるときは代行する。事務局 長、事務局次長、各部長、副部長の選出は、理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。

- 7 常任理事 (若干名) 理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。事務局、庶務、企画、会計の各部門に所属し事務を担当する。
- 8 理 事 各回生より選出し会長が委嘱する。諸事項を協議し、本会と回生の連絡に当たる。

- 9 校内理事（若干名） 母校の職員から会長が委嘱する。母校と本会との連絡に当たる。
- 10 会計監査（2名） 理事の互選により選出し、総会の承認を得て会計監査に当たる。
- 11 顧問（若干名） 母校の現職の校長・教頭及び本会の会長であった者は顧問とする。また本会のために特に適当と認められた者は、理事会において推薦し、顧問とする。名誉顧問をおくこともできる。

第5条（総会・入会式）

定期総会は、毎年度できるだけ早期に開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開くことができる。新会員入会式は、卒業式の前日に行う。

第6条（役員会）

会長は、必要に応じて常任理事会・理事会を召集する。

第7条（事業）

本会は、次の事業を行う。

- (1) 会報及び名簿の発行。
- (2) 奨学金制度の設置。
- (3) その他本会の目的達成に関して必要と認められた事業。

第8条（決議）

本会の決議は、総会において、出席会員の過半数の同意を得てこれを定める。

第9条（経費）

本会の経費は、入会金・終身会費並びに寄付金をもってこれに当てる。

- (1) 会員は、入会の際、入会金、終身会費を納入する。
- (2) 昭和57年度以前の会員は、終身会費を納入する。

第10条（会計年度）

本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第11条（届出事項）

- (1) 会員は、その住所・氏名に変更があったとき、その他一身上の異動があったときは、直ちに事務局に通知する。
- (2) 本会に支部を置くことができる。
- (3) 会員が本会の後援を必要とする場合は、別紙に必要事項を記載の上、会長に届出、理事会の承認を得る。

第12条 会員及び客員の慶弔、その他の件については、別に決めた内規により行う。

付 則 この会則は、平成11年4月29日から施行する。

改訂 平成16年5月2日

改訂 平成28年5月15日

改訂 平成29年5月14日

(第118回 甲府西高同窓会定期総会) 懇親会 次第

日時 令和5年5月13日(土)
13時30分受付
14時00分開会
場所 山梨県立文学館講堂

「一如のめぐり逢い 過去と今が重なるとき」

総合司会 小田切いくみ さん

1. 開会宣言
2. ジャズパフォーマンス
スイングバードサクスカルテットによる演奏をお楽しみいただきます
3. 来賓紹介
4. 傘寿の祝い
5. 甲府高女、二高、西高物語（第一部）
映像により西高の歴史を振り返ります
6. 甲府高女、二高、西高物語（第二部）
現役高校生が現在の西高をご紹介します
7. 校歌斉唱
8. 引継ぎ・閉会挨拶

一丸の逢い
丸の逢い

過去と今が
重なるとき

特集

～あの頃、あの時～

| | | |
|-----|----------|---------|
| 恩 師 | 馬場 和子 先生 | |
| 恩 師 | 手島 俊樹 先生 | (高32回生) |
| 卒業生 | 時田 京香 | (高13回生) |
| | 鈴木めぐみ | (高30回生) |
| | 秋山 真志 | (高31回生) |
| | 諏訪 佳一 | (高31回生) |
| | 窪田 圭一 | (高31回生) |
| | 小田切いくみ | (高54回生) |

甲府二高から甲府西高へ 思い出すこと



恩師

馬場和子先生

ちょうど50年前の昭和48年4月、高校教員7年目に甲府二高に赴任しました。当時の校舎は現在の「YCC県民文化ホール」の敷地にありました。古い建物で職員室は過去に手狭になっただけで、隣の部屋と合体させたような変な形の部屋でした。大きい方の入口の扉は観音開きで、開け閉めする度に大きい音とはこりが舞い落ちてくるような状況で、新校舎に引越すまでの二年間をここで過ごしました。着任1年目は1年生の担当でした。この学年は11組までであったので、普通教室が1つ足りなくて急遽地学の実験室が11組のホームルームとして使われたことが強く印象に残っています。

甲府学区の高校入試制度が総合選抜制度に変わることに伴い、校名や校歌や制服など次々と大事な事柄が職員会議で決定されていく時期の在職でした。

新校舎で、甲府西高となった2期生の1年1組の担任になりました。「西高」と聞いてまず頭に浮かぶ強烈な印象は、生徒が実によく家庭学習をしたことです。私の担当教科は数学で、当時は教科傍用問題集として数研出版の「オリジナル」を持たせていました。授業が終わるとすぐに生徒

が教卓に寄って来て、オリジナルの解らなかった問題を質問するのです。時には先を争ってぶつかり合ったりしていたこともありましたが、休み時間終了のチャイムが鳴り始めて慌てて生徒も私も次の授業のための行動に移るということもありましたが、本当によく家庭学習をし、積極的に質問をしてくれたことが、私にとっては非常に嬉しかった事で忘れられません。

総合選抜制度になったが故に西高に入学してしまったことで、不満や不安を口にする生徒もいました。他校の学習進度や学校行事などを口にする生徒がいました。3年生になった我がクラスの男子4人は、一高の伝統行事である強行遠足をこっそりやってしまいました。直前にM君の母親からの「止めさせてください。」という電話で私は計画を知りましたが、彼らが夜間の巡視者の手配などしっかり準備をしていることがわかったので、心配している母親には彼等のために協力・援助を依頼して実行となりました。W君がお土産にくれた信州りんごの極上の美味しさは忘れられません。甲府二高・西高に8年間勤務出来たことはとても幸せなことでした。

◆プロフィール

1963年3月 山梨高校卒業

1967年3月 山梨大学教育学部自然科学科数学科卒業

1967年4月・2005年3月 県立高校教員として定年まで勤務

以降は甲府家庭裁判所家事調停委員・韮崎公民館運営審議会委員・民生委員 主任児童委員などを経験

現在は小学生の登校時の見守り活動実施中・6年目・



「私が感じた西高を支える力」

恩師

手島俊樹先生

(高32回生)

「甲府なる第二高校」から「甲府なるわが西高」に。校歌の歌詞を修正する校内放送が今でも記憶に残っていますが、私が入学した1977年は校名が変更された節目の年でした。当時の生徒総会では、校名変更の是非や強歩大会の実施などが議論され、自分たちの学校を自分たちの手で創り上げようとする先輩方の姿に圧倒されたことを覚えています。学校の変革期とはいえ、こうした先輩方の姿勢は、今にして思えば、これまでの伝統の中で培われてきたのではないかと感じています。

高校時代の思い出として真っ先に浮かぶのは、3年のときの鳳凰祭での舞台発表優勝ですが、後で伺ったところでは、鳳凰祭での様々な催しも、先輩方の御苦勞があって実現したとのこと。よき仲間にも恵まれ、居心地のよい高校生活でしたが、それも先生方はもとより先輩方のお陰といえそうです。

さて、大学卒業後、県立高校の教員になりまし

た。母校とは縁遠かったのですが、最後に校長として3年間勤務できたことは望外の喜びであり、感謝しているところです。校長3年目の2020年には、新型コロナという逆風にさらされましたが、私の支えとなってくれたのは、同窓会の皆様であり生徒たちでした。感染防止に対する御支援など同窓生の皆様の後輩を思う温かい気持ち、コロナ禍にあっても伝統の灯を消さず次につなげたいという生徒たちの鳳凰祭などにかける思いは、高校時代に先輩方の姿に感じた「自分たちの学校を自分たちの手で」に通じるもので、私にとっては何よりの励みでした。

学校の教育活動を主体的に創っていくという姿勢が、今の生徒たちにも脈々と受け継がれ、同窓生の皆様にとっては卒業した母校に対しても変わらぬ思いとして息づいている、これこそ西高の力と感じています。そんな母校の益々の発展を祈る次第です。

◆プロフィール

1980年3月 甲府西高校卒業

1984年3月 金沢大学卒業

1984年4月 山梨県立高校教員採用

山梨園芸高校 都留高校 甲府南高校 巨摩高校定時制 県教育委員会事務局などに勤務

2018年4月 甲府西高校 校長

2021年4月 県教育委員会 高校教育監

2022年4月 県教育委員会 教育長

「西美会とともに」



時 田 京 佳
(高13回生)

四月、甲府二高に入学、今思うと本当に幼くて毎日学校で友達に会うのが嬉しくて、ただただ笑って過ごしていたような気がします。高校三年生になって周囲が卒業後を話題にするようになり、初めて将来を考えるようになりました。従兄弟がリーダーズダイジェストという米国の定期刊行雑誌の日本語版を購読していて読み終えた本をもらいました。本の内容はファッション、諸外国の記事、ジョーク集、逸話など、もの珍しくてワクワクしながら勉強そっちのけで読んだものです。記事の中にショーウィンドウのディスプレイデザイナー、テキスタイルデザイナーという仕事があることを知り、絵を描くことが好きだったので東京の専門学校に行きこのような仕事をしたいと思うようになりました。

その頃公務員試験の話が学校からあり、兄姉親戚が公務員でしたので受かるとは夢にも思わず受けたところ合格しました。父が早くに亡くなり母の苦勞を見ていたため、母の喜ぶ顔を見て、東京へ、専門学校へとは言えず、いくつかの面接案内が来た中で山梨県厚生労働部保険課に国家公務員地方事務官として就職しました。その頃国の方針で国民皆年金体制が始まり忙しい毎日を過ごしました。子供が小学校に入学を機に地

方事務官を退職、中学・高校になった頃、山梨県立美術館に監視員として仕事をする事になり、道は違いましたが好きな名画に囲まれてとても幸せな時を過ごすことが出来ました。同僚の先輩が西美会の会員だったので、当時も絵を少しは描いていましたので誘われて入会することに。西美会は甲府高女、二高、西高、在校生と他に類を見ない会で、皆様素晴らしい作品を製作、発表されていて、私もこれはしっかり真剣にしなければと気持ちを新たにしました。年に一度県立美術館で西美展を開催、研修会を始めとしてとても精力的に活動をしている会です。平成二十六年から三十一年の五年間、皆様の協力のもと力不足でしたが会長を務めさせていただきました。同窓会の方々にはいつも西美展に起こしいたいただき感謝しております。西美会は令和五年に六十周年を迎えます。今後ともよろしく願いいたします。

高校の親友たちとは今も付き合いがあり、昨年は、北海道から、長野から、山梨からと東京に集まり一泊。学生の頃の話に盛り上がり笑って笑ってとても楽しい二日間を過ごしました。これも二高の学生時代があったからこそと感謝しております。

◆プロフィール
山梨県厚生労働部保険課
山梨県立美術館
西美会会員



「鮭は川に帰る」

鈴木 めぐみ

(高30回生)

同窓会誌への寄稿としてはどうかと思いますが、西高の3年間は、ただただ早く卒業したいとばかり思っていました。毎日特に楽しくもなく、打ち込めることも何もなく、上級生は女性ばかり。将来の目標もない。八ヶ岳おろしの寒風吹き荒ぶ土手道を自転車で通学する日々が、本当に嫌でした。

上京できたら何でもよかったので、大学の学部選択も適当。就職、転職、結婚も、なんとなくの流れのままでしたが、27歳の時、突然、「弁護士になってやる」と決心したのです。当時、某ファッションデザイナーの秘書をしていたのですが、結婚直後に夫が「たかが秘書のくせに」と暴言を吐き、私の地雷を踏んだのがきっかけです。半年後には仕事を辞め、司法試験予備校に通い出しました。なぜ司法試験かを話すと長いのですが、要するに人生をリセットするには一番の資格だと思った為です。法学部出身ではないのでゼロからの出発。きっかけはどうあれ、初めて自分の人

生に真剣に向き合うことになった瞬間でした。10年遅かった。(ちなみに、例の暴言については、夫は色々な意味で後悔したようです。) こうして、37歳の時にようやく弁護士になりました。離婚、相続、不動産、会社の諸問題等、殆ど何の相談でも受けるマチベンですが、四半世紀以上続けられているので、向いていたのでしょう。

さて、あれほど離れたかった故郷ですが、50歳を過ぎた頃から、頻繁に山梨の風景を思い出すようになりました。たまたま仕事で甲府に行くことがあります。昭和インターを降り西高の横を走る時には、校庭を眺められるようにゆっくり走って懐かしさに浸っています。当時全く付き合いのなかった西高の同級生とも、頻繁に遊ぶようになりました。見栄も遠慮もなく自然な付き合いができるのが同窓生の不思議です。

長い旅をして、川に戻って来た鮭なのかな、と思っています。

◆プロフィール

1978年西高卒業。

早稲田大学第一文学部英米文学科卒業後、出版社、デザイナー秘書を経て、1996年弁護士登録
 弁護士法人梅田総合法律事務所 東京事務所パートナー

西高生だった頃をふりかえって



秋山 真志

(高31回生)

私は西高を1979年に卒業してから現在まで、常に悪戦苦闘の連続で、後ろを振り返る余裕など全くございませんでした。この度、この原稿を執筆させて頂くにあたり、あらためて西高時代を振り返りますと、私は本当に存在感に乏しい生徒だったと気づきました。部活に頑張るわけでもなく、生徒会活動に参加するわけでもなく、鳳凰祭でも、とりたてて活躍することもございませんでした。このような訳で、私が同窓会誌に寄稿するなど、おこがましいと思っております。しかし、私なりに学生生活を謳歌していたとは、思います。それは、当時の西高の自由な校風、包容力のある雰囲気によるものが大きいと改めて感じます。その雰囲気は、恩師の先生方、同級生や先輩、後輩の皆さんたちに醸し出して頂いたものと思います。西高は、私が入学した時は、男女共学になって2年目で、もちろん、長い女子高としての伝統は大切にしつつも、新しいものを迎え入れる、進取の気性があったように思います。私自身は、教

室の隅で静かにしているような、目立たない存在でしたが、西高時代、そんな私を、地味に、自由に過ごさせてくれたのは、西高の包容力だと思います。そのおかげで、いろいろなことを考えることができた時代であり、私にとって貴重な時間であったと、今更ながら気づきました。その自由な時間の中で、私は、将来研究者として生きていくことを決めました。そのためにどうすればよいか、一生懸命考えました。卒業後は、常に自分の未熟さを思い知ることの連続で、1日1日を乗り越えるのに必死で、現在に至っております。皮膚科学の研究者としての研究環境を求めて、慶應大、ワシントン大、帝京大、北大、そして、名古屋大学と渡り歩きましたが、目指してきた方向性は間違っただけではなかったと思っております。その自分の生きて行く方向を決めさせてくれたのは、間違いなく西高時代であり、その点で、素晴らしい高校生活であったと感謝いたしております。

◆プロフィール

- 1986年 慶應義塾大学医学部卒業 同大学院医学研究科入学（皮膚科学専攻）
- 1990年 博士（医学）（慶應義塾大学）
- 1992-94年 ワシントン大学医学部（シアトル）上級研究員
- 1999年 帝京大学医学部附属市原病院 皮膚科 助教授
- 2001年 北海道大学医学部 皮膚科講師、2007年 同准教授
- 2010年-現在 名古屋大学大学院医学系研究科 皮膚科学分野 教授
- 2020年-現在 名古屋大学大学院医学系研究科 副研究科長



「たいし」を胸に果敢にチャレンジを!

窪 田 圭 一
(高31回生)

1976年入学の私達西高二期生は、甲府二高に入学し甲府西高を卒業した数少ない年代である。周囲から「新しい学校は色んなチャレンジができる」などと励まされて入学。

まず驚いたのは応援練習。一期生Y先輩の雰囲気等は坊主頭の少年には些か痺れたが、縁あって応援団で3年間を過ごすことに。当初の応援の型は巨摩高校で習った同じ型。その後、六大学の団長だったF君のお兄様から猛特訓を受け、H大学の応援パターンが西高の基本形になったことは余り知られていない話か。いずれ仲間と共に西高独自のものを作ろうとチャレンジしつつ、エール交換には相手を敬う清々しさを感じ、礼節に触れた気になったのも高校時代の懐かしい思い出である。

大学では礼節の先にある真剣味の体現や過酷な上下関係に心折れそうになりながらも、仲間の励ましに4年間日本拳法部に在籍。某県警のOBに憧れ、卒業後(昭和58年)山梨県警入りし、同じ道に進んだ拳法部同期やOBとの繋がりに多くの助けを得る事となる。

拝命後は21回の異動辞令を受け、赴任地の方々にお世話になりながら38年間在職。甲府警察署長時代、歌会始に参加した西高生が詠んだ交通標語を書道部の生徒が毛筆書きして上り旗を作り、歩行者の交通事故防止を呼び掛けたことは今でも思い出深い。3期生のT校長先生(当時)とお世話になった後輩達とのご縁に感謝することしきりである。

これまで出会った方々はもとより、今もクラス会で会う高校時代の仲間は真の心の支えであると実感する。大きな志(たいし)を胸に「魂」「勢い」「辛抱」を意識して過ごす事ができたのも恩師や仲間のお陰に違いない。

還暦を過ぎ体力の衰えは否めないが「恕の心を忘れるな」という天国からの恩師の声が聞こえるうちは、気を若く、世の為人の為にもう一踏ん張りしたいと思う。今後も母校や同窓生、そして後輩たちの様々なチャレンジを応援する甲府西高サポーターであり続けたい。フレー!フレー!西高、それっ!!

◆プロフィール

1961年3月甲府市生まれ。

伊勢小、南西中を経て、1976年甲府二高に入学し1979年甲府西高を卒業。

1983年中京大学法学部卒業と同時に山梨県警察官を拝命。

以降、警察庁出向を含め38年間在職し、2021年山梨県警本部警備部長職を最後に退職。

現在は一般企業に勤務。

原点を思う



諏訪 桂一
(高31回生)

1976年、共学2年目の入学生です。入学時の校名は甲府第二高等学校、学年11クラス500名近い大所帯だったと記憶しています。学区外通学だったので自転車2台と身延線を使い、片道1時間以上をかけて通う毎日でしたが、友達とワイワイ言いながら過ごす学校生活は楽しくて楽しくて仕方ありませんでした。2年に進級する時(女子校最後の3年生が卒業するのを機)に、校名が「西高」に変更されました。「二高は女子校というイメージが強いから」という説明を聞き、自分達でそのイメージを変えていけばいいのではと、生意気なことを言った覚えがあります。しかし、春休みを終えて登校したら、校門の銘版は「甲府西高等学校」に変わっていました。

振り返ると、懐かしい映像が断片的ですが浮かんできます。担任の思い付きで高くした教壇に次々とつまずいた先生方の苦悶する顔。誤って倒した消火器の煙に白くかすんだ廊下。早弁に失敗して床に落ちた弁当箱。授業中、窓から眺めていた非常階段。徹夜して仕上げた鳳凰祭のプロゲ

ラム原稿。黒板の方ばかり向いて授業していた先生の後ろ姿……。他愛もないことは覚えているのに、肝心なことは忘れてしまっているようです。

3年生になっても明確な進路を見出せていなかった私に「教員」という指針を与えてくれたのは、「俺はジュリーと同一歳」が口癖の担任でした。鳳凰祭に遊びに来ていた近所の小学生を引き連れて歩く私を見て“ピン”ときたそうです。あれから44年、その恩師は既に鬼籍に入られ、私も小中学校での教員生活を終えました。

人生の第二ステージ、これからは、自分を支え続けてくれた地元への恩返しをしていこうと考え、町議会議員の選挙に出馬しました。30年以上も前に担任した教え子が応援に来てくれたり、近所に住む教え子達が「先生がんばれ」と励ましてくれたりと、多くの方の支援をいただき、今、新たな生活を歩み始めています。還暦を過ぎた身では、あの頃のように駆け回ることはできませんが、歩みを止めず、前を見続けたいと思っています。

◆プロフィール

1960年生まれ

1979年 甲府西高等学校卒業

1983年 都留文科大学卒業・教員生活スタート

2021年 市川三郷町立三珠中学校校長を最後に定年退職

2022年 市川三郷町議会議員に初当選(1期目)



感じることを大切に

小田切 いくみ
(高54回生)

「体験したこと、感じたことを自分の言葉で伝えたい!」

そう思ったのが、アナウンサーを目指したきっかけでした。取材では、ここに至るまでの経緯を紐解いていくことが必須となりますが、そこにはたくさんのまだ見ぬ世界が広がっていて、いつも私の好奇心を刺激してくれます。

単位制に移行した3年目の年に入学し、県下全域から集まった個性豊かな友人たちと巡り合いました。思い返してみると、「自分は自分。自分の信じた道を進もう」と思えるようになったのは西高時代の友人の影響が大きいと思います。興味のあることには果敢なく挑戦し、夢を引き寄せる力を目の当たりにしてきました。高校生活は、それぞれの個性を尊重し合う友人同士の関係性が自然と構築され、笑いと刺激の絶えない毎日を過ごしたことを今でも思い出します。人には何通りもの人生があり、どれを選択するかは自分次第。年齢を重ねてからも「人を知る」、「その思いを感じる」ことは、私自身の心も豊かにしてくれていま

す。私の未来に必要なだったその根本に気付かせてくれた場所が西高でした。

現在は、アナウンサーの経験を子どもたちに講演する機会が多くなり、西高でも講演させて頂きました。未来へ羽ばたく子どもたちに今、伝えたい思いを声にのせて発信しています。

声は“人を映す鏡”と言われます。キャスターや番組MCなどを経て、力を注いでいるのがナレーション、朗読の分野です。入社6年目でJNN・JRN系列各局が参加するアナウンス技術の審査会のナレーション部門で優秀賞を受賞して以来、その奥深いナレーションの世界を追求し続けています。私の尊敬するアナウンサーはこう話します。「“感じる”を大切に。感じられれば必ずとその感情が声に滲むのだ」と。アナウンサーの道を選び、これまでの経験全てが必要不可欠だったと実感する日々を過ごしています。「声によって伝える」という語りを究められるよう、これからも“感じる”を大切にしていきたいと思います。

◆プロフィール

UTYテレビ山梨アナウンサー。中央大学商学部を卒業後、2006年テレビ山梨に入社。2009年から8年間「UTYニュースの星」キャスターを務める。現在は、平日夕方4時45分から放送中の情報番組「スゴろく」MC、山梨県広報番組「いちおし山梨」に出演する他、講演会や司会など多岐にわたり活動している。